

平成24年度

# 農地白書

「見える化」を実現！  
見つける・見抜く・見きわめる



編集・発行 米子市農業委員会

表紙写真

遊休農地を再生したネギ畑  
(大崎地区)

## 農地白書の発刊に当たって

近年の農業は、少子高齢化社会の進行に伴う農業担い手の減少、米を始めとする農産物価格の低迷、遊休農地（耕作放棄地）の増大など、生産構造の脆弱化が懸念され、農業を持続発展させるためにはこれらを払拭させることが大きな課題となっており、米子市においても例外ではありません。

農地白書は、鳥取県農業委員会系統組織の”農地を守り活かす全県運動“の一環として、農地にかかる諸問題を様々な角度からありのままを見つけるとともに、農声をより深く広く把握・発信するため鳥取県版（鳥取県農業会議）と併せて市町村版を発刊することとなりました。

本書が、それぞれの地域における多様性、特殊性など農業現場の事情を把握し、関係機関・団体等の連携強化により、地域農業のさらなる発展の一助になれば幸いです。

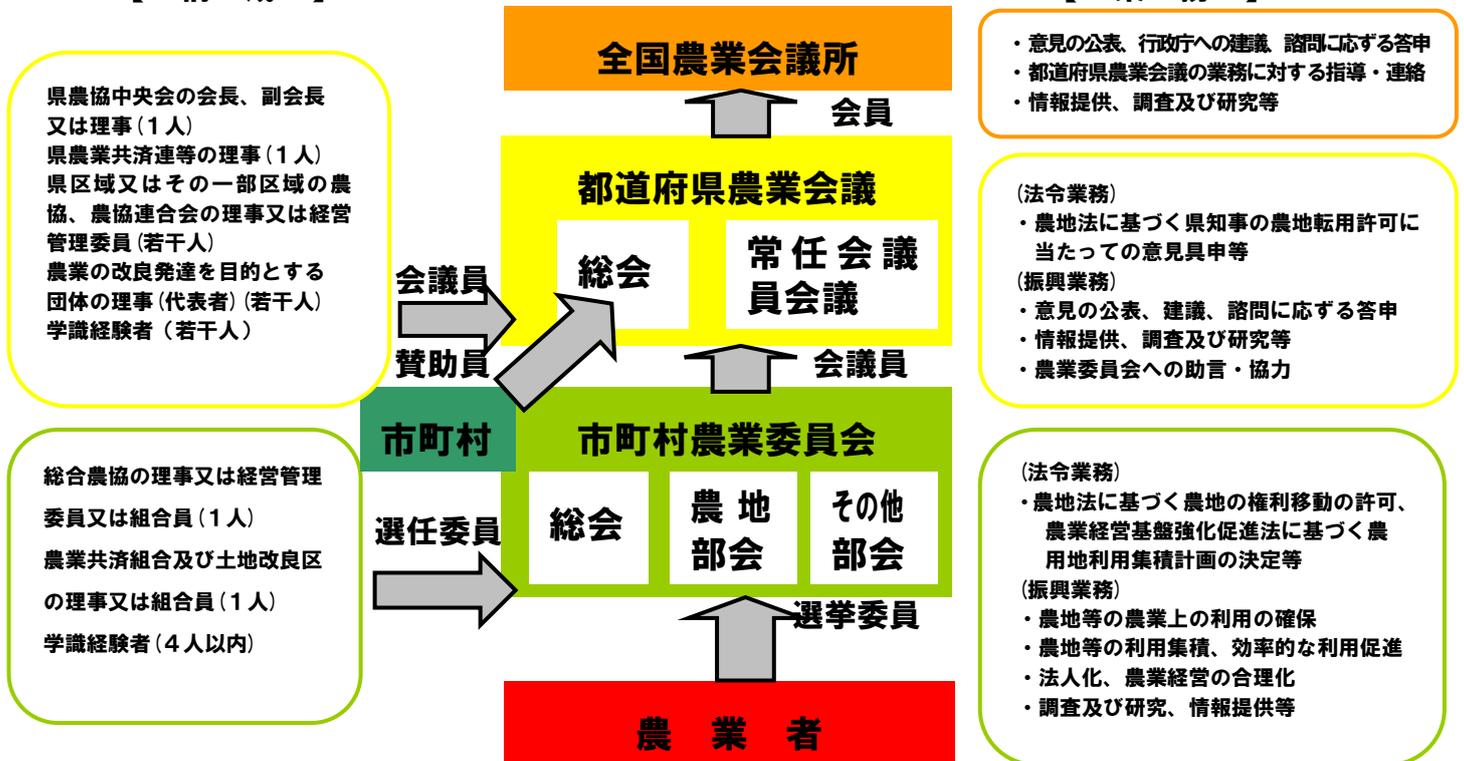
平成25年3月

米子市農業委員会  
会長 仲田 邦治

## 農業委員会系統組織の体系

### 【 構成 】

### 【 業務 】



## 米子市農業委員会の概要 (赤字は農地白書作成の根拠)

<b>根拠法</b>	農業委員会等に関する法律 (昭和26年制定)	<b>役割 (所掌業務)</b>	①農地法等規定に基づく許認可に係る事務処理 ◆農地法及びその他の法令によりその権限に属された農地等の利用関係の調整に関する事項 ◆農業経営基盤強化促進法等 ②地域農業振興を図る促進業務 (農業振興業務) ◆農地等の確保、利用集積等の効率的な利用促進に関する事項 ◆法人化その他農業経営の合理化に関する事項 ◆生産・経営・生活に関する調査研究と情報提供 ③農業・農業者に関する意見の公表、建議及び答申 ◆農業・農民に関する事項について意見の公表、建議及び諮問に応じて答申
<b>組織</b>	市町村に設置されている行政機関 (選挙・選任委員で構成する合議体の行政委員会)		
<b>構成</b>	農業委員定数30人 (平成17年3月定) (うち選挙委員25人、選任委員5人)		

# 目 次

農地白書の発刊に当たって (表紙の内面)

農業委員会系統組織の体系

市町村農業委員会・農業会議の概要

## 第1部【基本編】農地の基本的価値 1

### ◆①「食料供給」機能

図1 農業産出額の推移

### ◆②「就業創出(地域活力)」機能

図2 農業就業人口の推移と割合

### ◆③「環境保全」機能

図3 農業の多面的機能の貨幣評価

## 第2部【農地編】農地基盤・利用の姿 2

### ◆①遊休農地の実態と発生要因

図4 遊休農地の区分別面積と割合の推移

図5 農家類型別遊休農地面積の推移

図6 遊休農地の要因分析

### ◆②農地の立地条件 3

図7 農業地域類型別の面積割合

図8 農地整備の状況

図9 農地筆数及び1筆平均面積

### ◆③農地面積の推移と利用整備計画等の状況 4

図10 農地面積の推移

図11 農業振興地域内農用地区域の設定状況

図12 中山間直接支払い対象面積と協定数

### ◆④農地の利用状況 5

図13 営農類型別農地利用面積と農地利用率の推移

### ◆⑤農地の貸借状況 5

図14 農地貸借の推移(累計)

図15 農地賃借料の状況

図16 遊休農地解消後の利用状況

図17 解消事業の実施状況

### ◆⑥農地転用の状況 7

図18-1 農地転用面積の推移

図18-2 農地転用面積の内訳

図19 水張り水田(保全)の状況

## 第3部【労働編】農業就労(人)の姿 8

### ◆①農業就業者の状況

図20 類型別農家の推移

図21 基幹的農業従事者数の推移

図22 農業者の男女別年齢別構成割合

### ◆②就農の状況 9

図23 新規就農者の推移

図24 認定農業者の推移

図25 農業法人等の推移

## 第4部【組織編】

### 関係機関・団体の役割分担 10

#### ◆①農業委員会の状況

図26 農業委員数の推移

図27 女性農業委員数と割合の推移

図28 事務局職員数の推移

#### ◆②関係機関等との連携 11

図29 平成24年度農地パトロールの農業委員等実施人数

## 第5部【特集編】 12

### 農業委員会系統組織活動の実績

1 農政活動トピックス

2 市町村農業委員会の主な建議事項

3 プロジェクト活動の概要

〈付〉

用語解説

14

農業委員名簿

(裏表紙の内面)

市町村の風土

(裏表紙)

第1部  
基本編

農地の基本的価値  
～「食料供給・就業創出・環境保全（3機能）」の発揮～

①「食料供給」機能

②「就業創出」機能

③「環境保全」機能

図1 農業産出額の推移

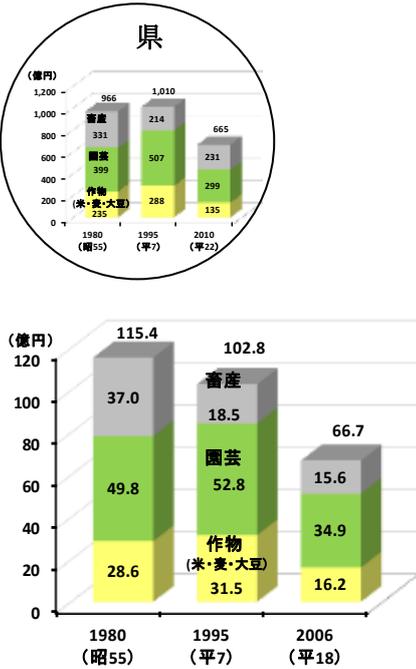


図2 農業就業人口の推移と割合

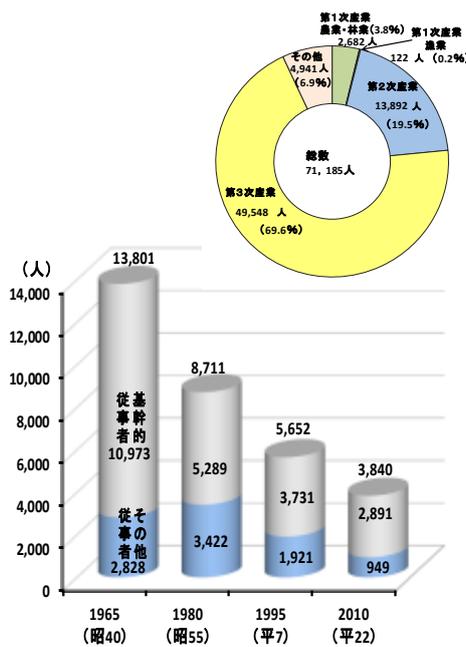
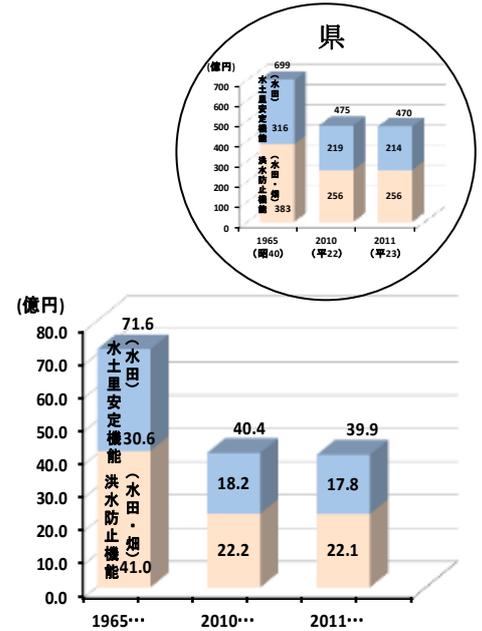


図3 多面的機能の貨幣評価



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

資料：農林水産省「農林業センサス」

資料：日本学術会議、(株)三菱総合研究所「農業の多面的機能の貨幣価値」(平成13年)を基に、市町村

(注1) 農業就業人口：農業のみに従事した者又は農業と兼業の双方に従事したが、農業従事日数の方が多い者

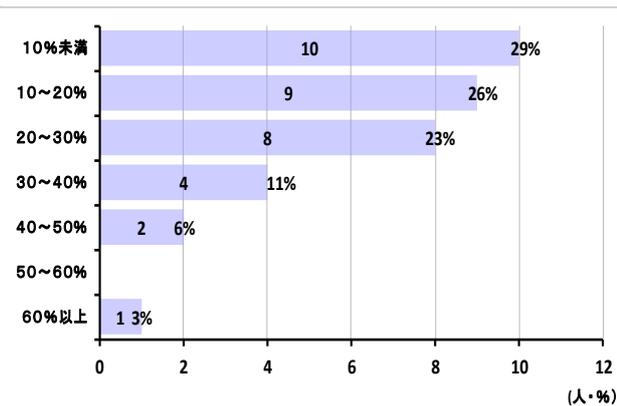
内耕地面積に換算したもの。

(注2) 基幹的農業従事者数：農業就業人口のうち、ふだんの主な状態が「仕事为主」の者

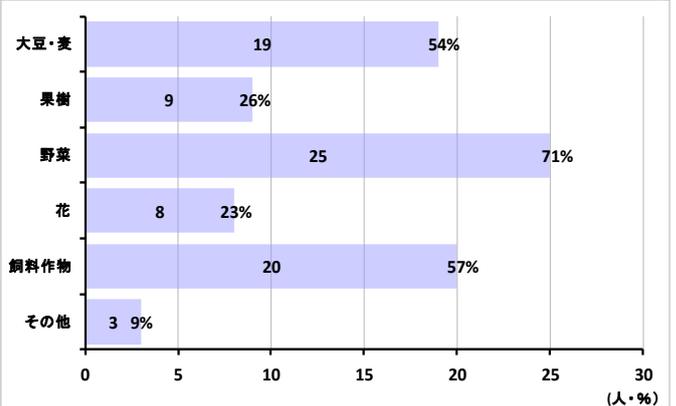
(詳しくは、用語解説 頁参照)

農業委員アンケート結果

【質問1】水田(水張り)を維持拡大するため、転作率はどの程度を理想と考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



【質問2】あなたの市町村で、今後、主食米(加工用米・備蓄米含む)以外で振興すべき作物は何だと考えますか。3つ選んで○をつけて下さい。



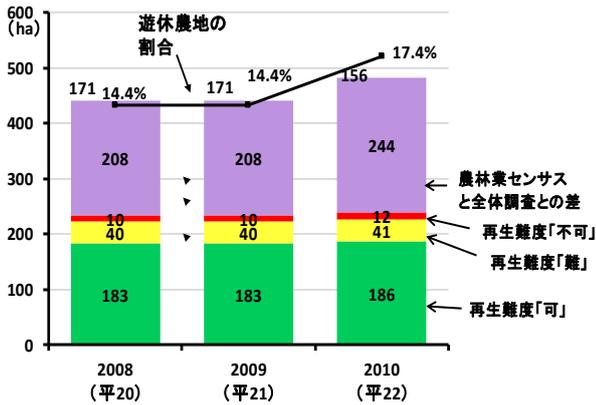
第2部  
農地編

農地基盤及び利用の姿

～農地の確保「遊休農地対策」と農地利用集積の促進～

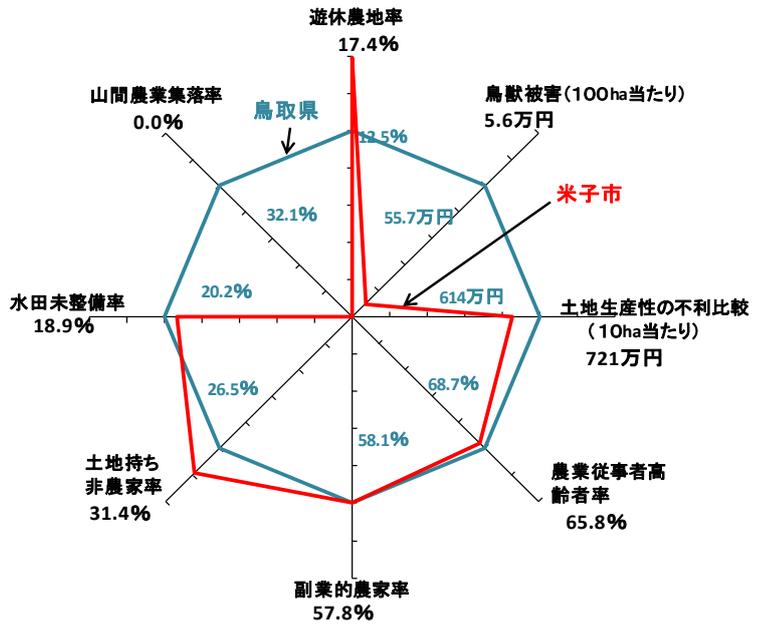
① 遊休農地実態と発生要因

図4 遊休農地の区分別面積と割合の推移



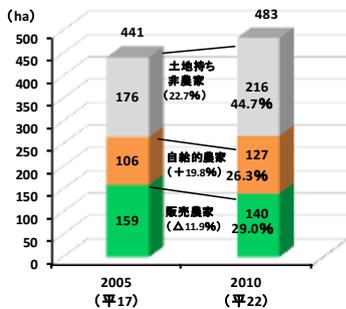
資料：合計面積は農林水産省「農林業センサス」  
区分別は農業委員会パトロール結果による  
(注) 遊休農地の割合は、  
耕作放棄面積 ÷ (経営耕地面積 + 耕作放棄面積) × 100

図6 遊休農地の要因分析



資料：各数値は各種データに基づき算定（用語解説参照のこと）

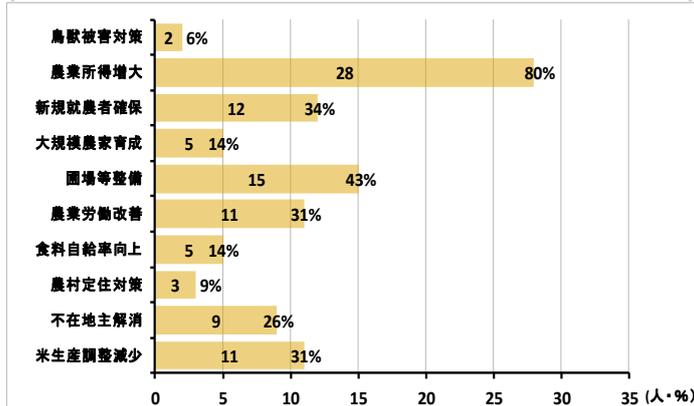
図5 農家類型別遊休農地面積の推移



資料：農林水産省「農林業センサス」  
(注) センサスの耕作放棄地を遊休農地と表現

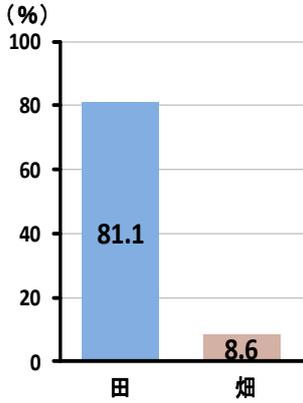
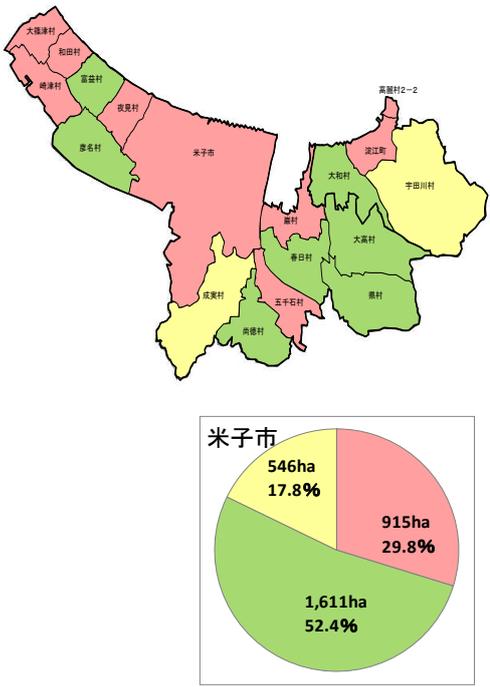
農業委員アンケート結果

【質問3】 遊休農地の発生には、さまざまな要因があります。解決に必要な対策は何だと思いますか。3つ選んで○をつけて下さい。

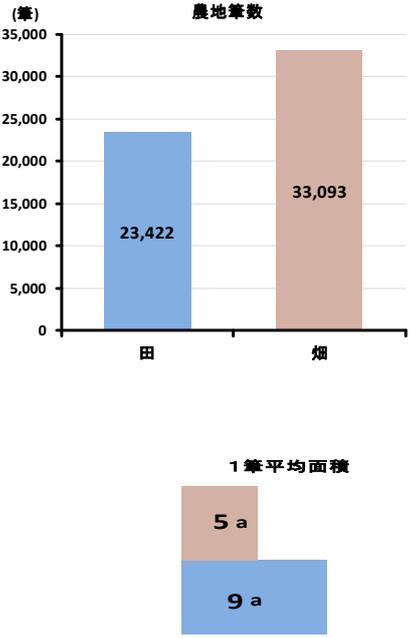


## ② 農地の立地条件

図7 農業地域類型別の面積割合 図8 農地整備の状況 図9 農地筆数及び1筆平均面積



資料：県農地・水保全課調べ



資料：農業委員会調べ

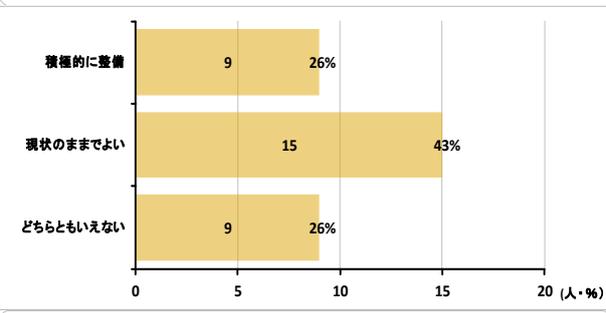
資料：農林水産省「2010年世界農林業センサス農山村地域調査（農業集落）」

(注) 農業地域類型基準指標

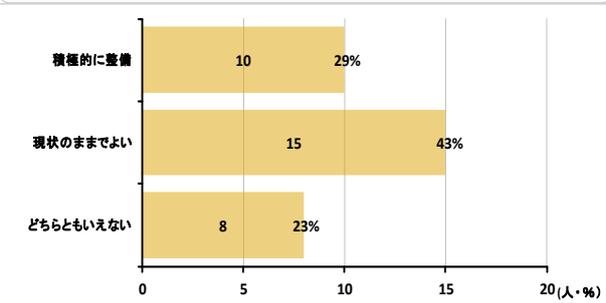
- 都市的地域＝人口密度500人以上及び宅地等/可住地面＝60%以上
- 平地農業地域＝耕地率20%以上かつ林野率50%未満
- 中間農業地域＝耕地率20%未満
- 山間農業地域＝耕地率10%未満かつ林野率80%以上

農業委員アンケート結果

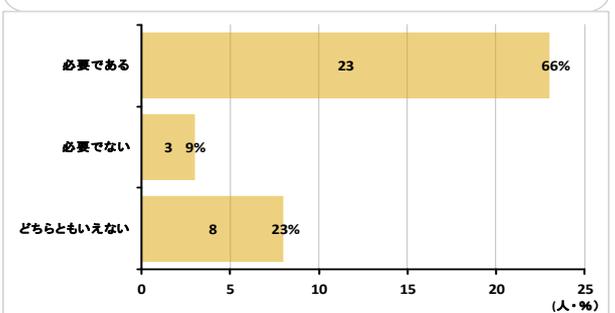
【質問4】 農地の区画整備は、今後いかにあるべきと考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。(水田について)



(畑について)



【質問5】 下限面積は、自然的・経済的自然条件からみて営農条件が同一と認められる地域で農家の経営規模及び農業振興計画等を考慮して定められていますが、下限面積の設定が必要ですかその必要性についてお聞かせ下さい。1つ選んで○をつけて下さい。



### ③ 農地面積の推移と利用整備計画等の状況

図10 農地面積の推移

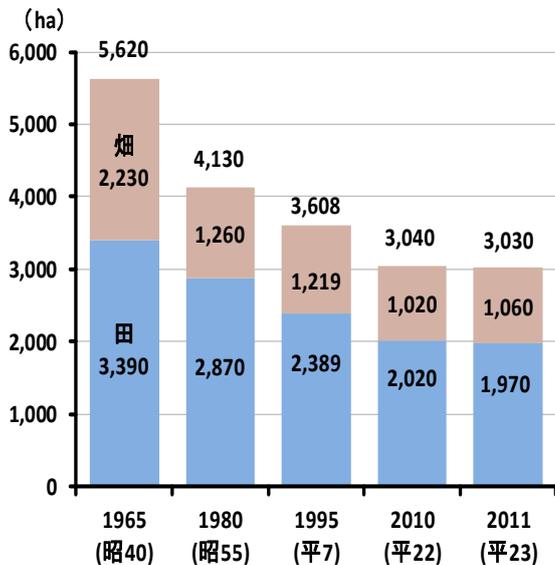


図12 中山間直接支払い対象面積と協定数

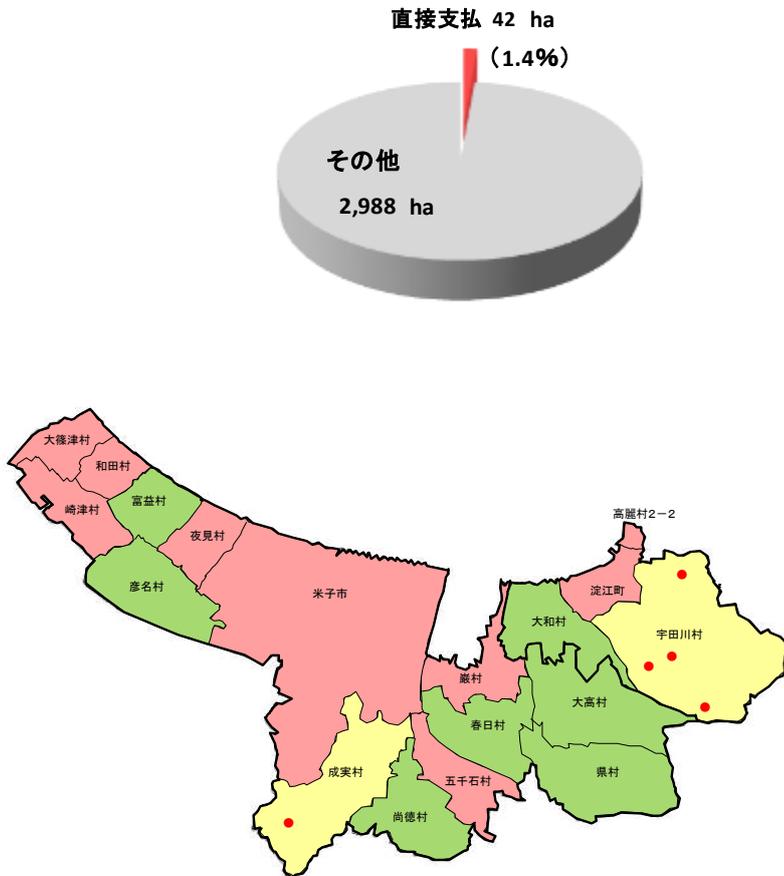
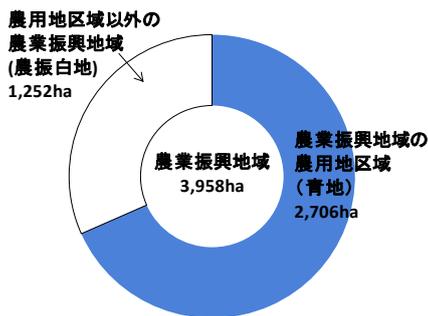


図11 農業振興地域内農用地区域の設定状況

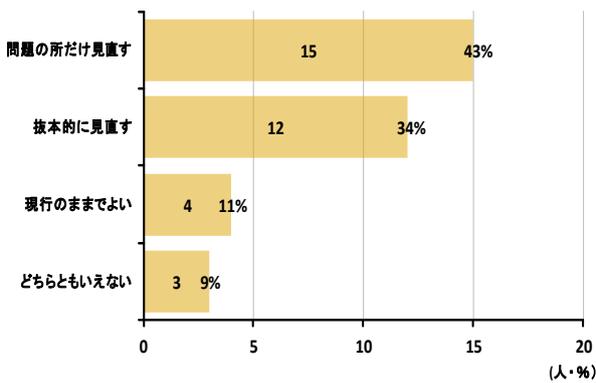


資料：県経営支援課調べ

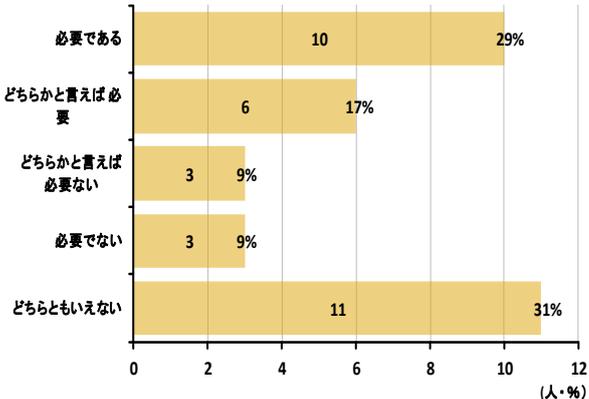
資料：県農地・水保全課調べ

農業委員アンケート結果

【質問6】優良農地を確保するため、農業振興地域が設定されています。農業振興地域のあり方について農業委員会の農地行政を進めるうえでどのように考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。

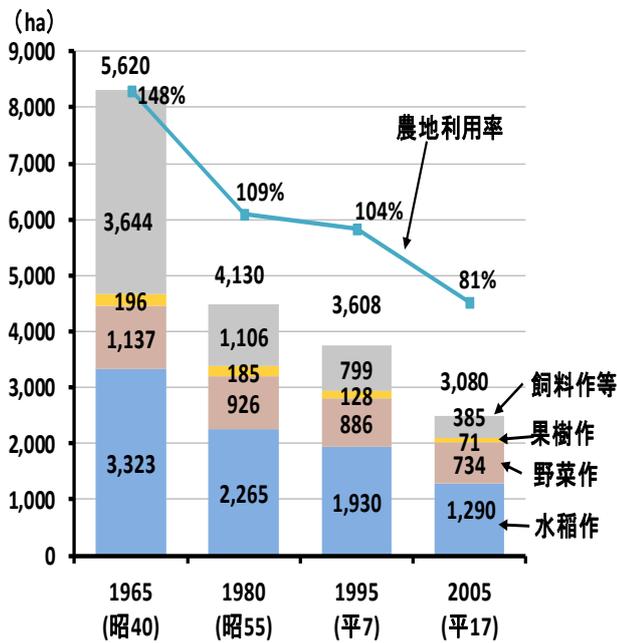


【質問7】中山間地直接支払制度がありますが、今後どのように考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



## ④ 農地の利用状況

図13 営農類型別農地利用面積と農地利用率の推移

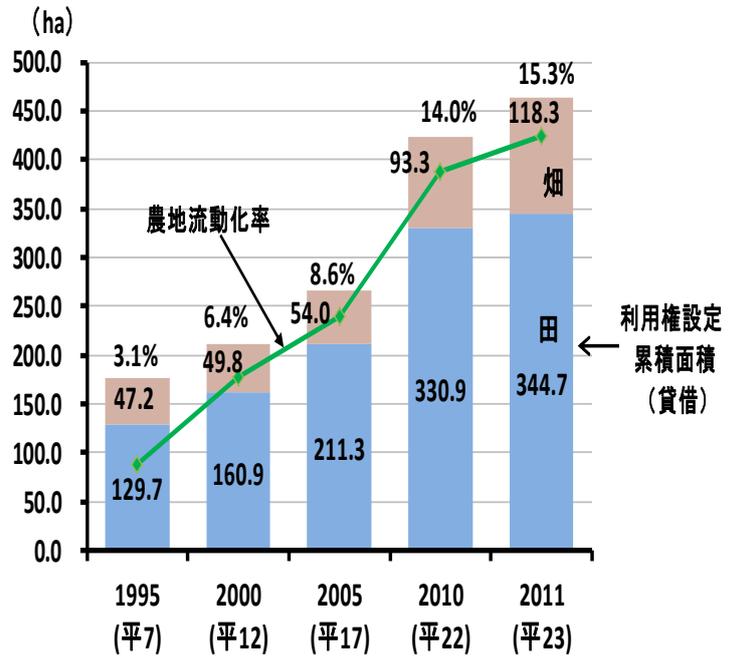


資料：農林水産省「耕地及び作付け面積統計」

(注) 利用率は、作付(栽培)延べ面積÷耕地面積×100

## ⑤ 農地の貸借状況

図14 農地貸借の推移(累積)

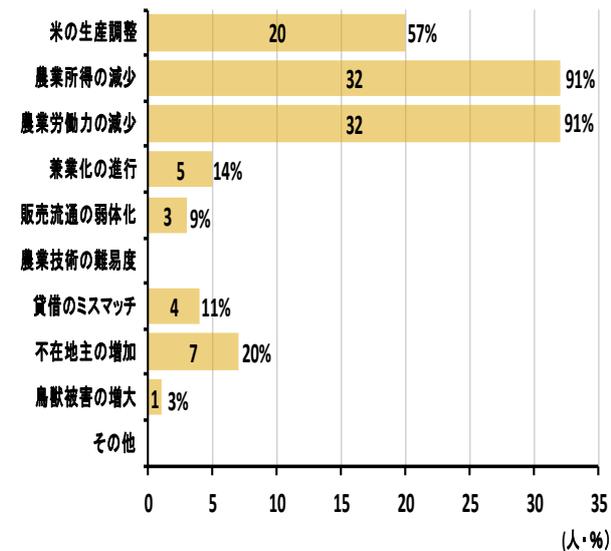


資料：農林水産省「農地面積調査」

「利用権設定面積」は農業会議調べ

### 農業委員アンケート結果

【質問8】農地利用率が下がっている主な理由は何だと思えますか。3つ選んで○をつけて下さい。



【質問9】農地流動化が進まない理由は何だと思えますか。3つ選んで○をつけて下さい。

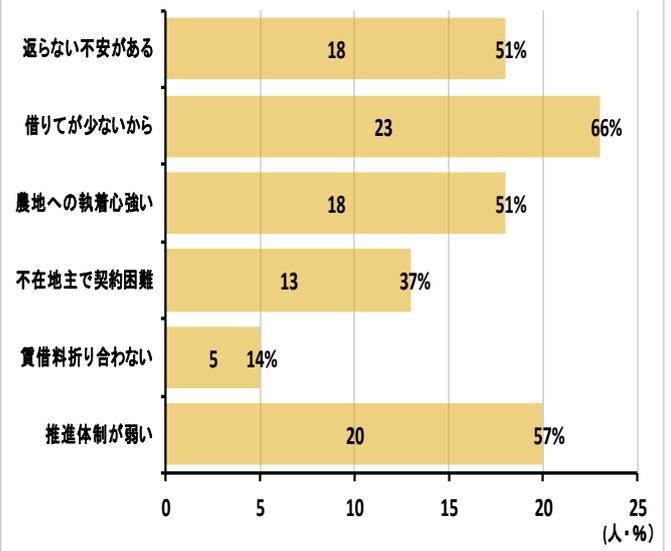
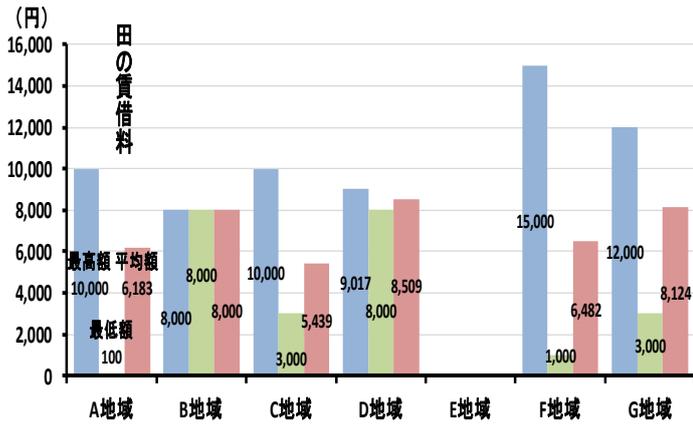
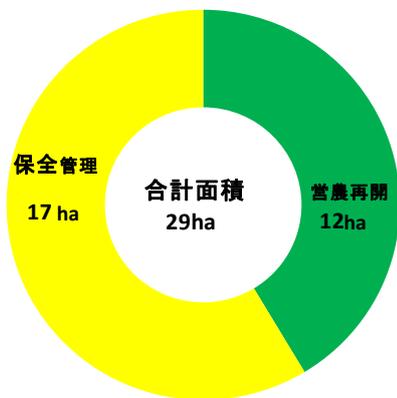


図15 農地賃借料の状況



資料：農業委員会調べ

図16 遊休農地解消後の利用状況



資料：耕作放棄地全体調査結果による

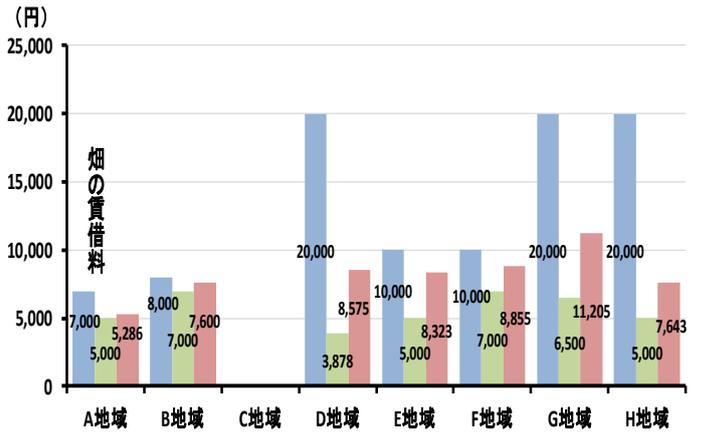
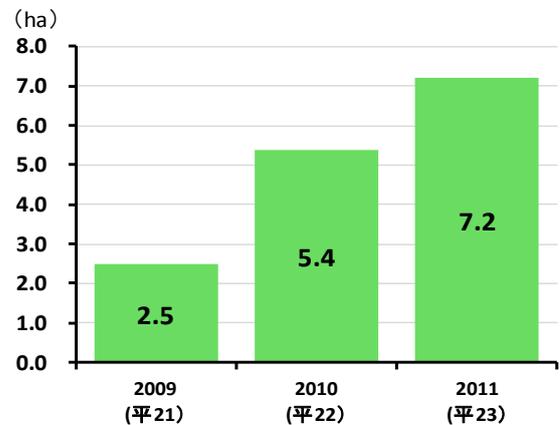


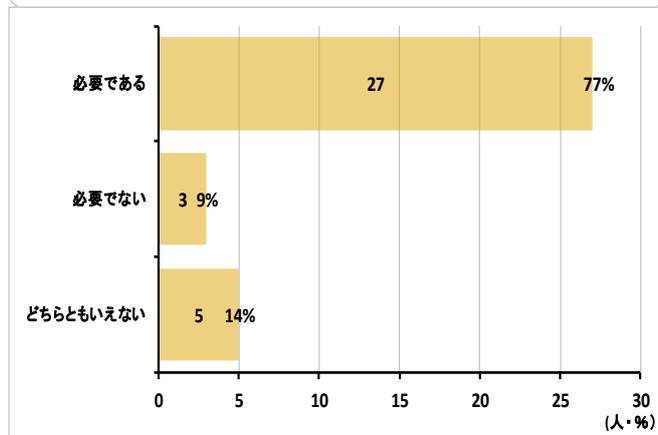
図17 解消事業の実施状況



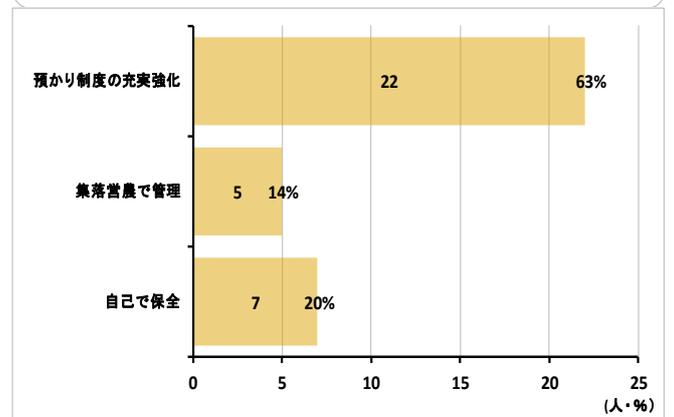
資料：県経営支援課調べ

農業委員アンケート結果

【質問10】標準小作料が廃止になって現行の農地賃借料情報となりました。賃借料情報の提供は必要ですか。1つ選んで○をつけて下さい。



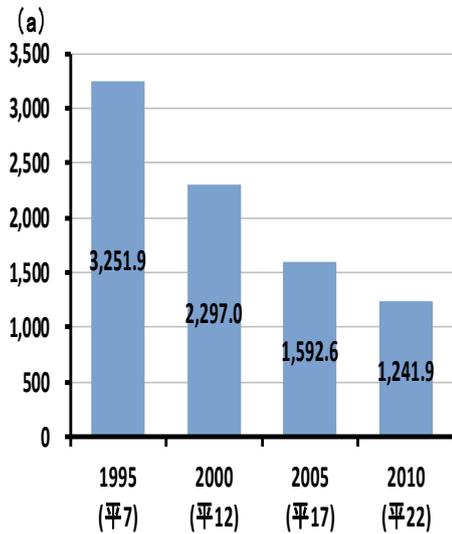
【質問12】貸し手・借り手のミスマッチなどにより遊休化寸前の農地が相当潜在していると見られています。農地保全対策はどうあるべきでしょうか。1つ選んで○をつけて下さい。



## ⑥ 農地転用の状況

図18-1 農地転用面積の推移

【平7～22】



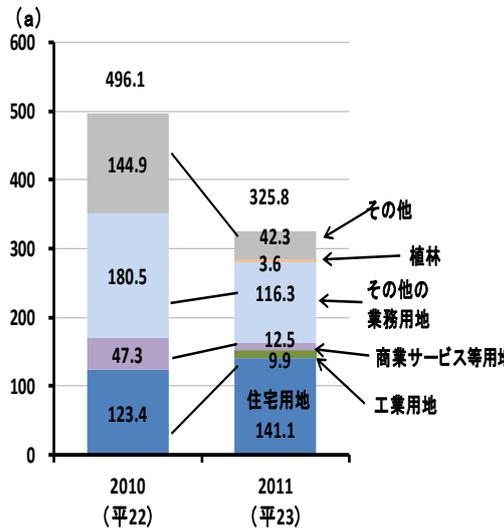
資料：農林水産省

1995「土地管理情報収集分析調査」

2010「農地権利移動等調査」

図18-2 農地転用面積の内訳

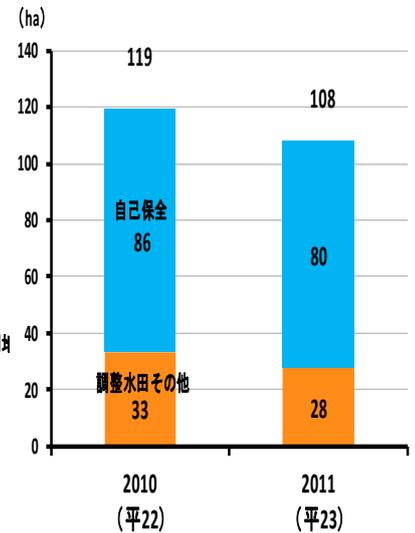
【平22：23】



資料：農業会議調べ（農業会議答申のみ）

（注）許可不要事案「公共的施設用地」はデータ公開が間に合わないため入っていない。

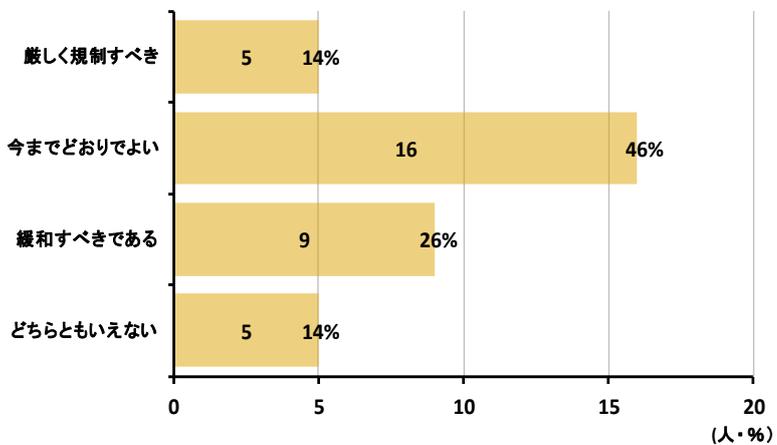
図19 水張り水田（保全）の状況



資料：県生産振興課調べ

### 農業委員アンケート結果

【質問11】 農地転用の実態についてどう思いますか。1つ選んで○をつけて下さい。

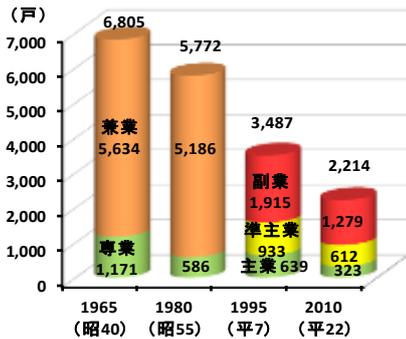


# 第3部 労働編

## 農業就労(人)の姿 ～農業者の高齢化・世代交代を踏まえた労働力総量の確保～

### ① 農業就業者の状況

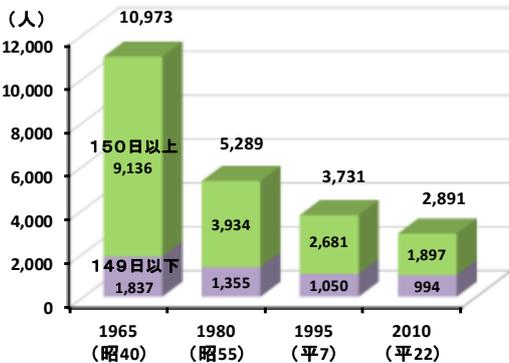
図20 類型別農家の推移



資料：農林水産省「農林業センサス」

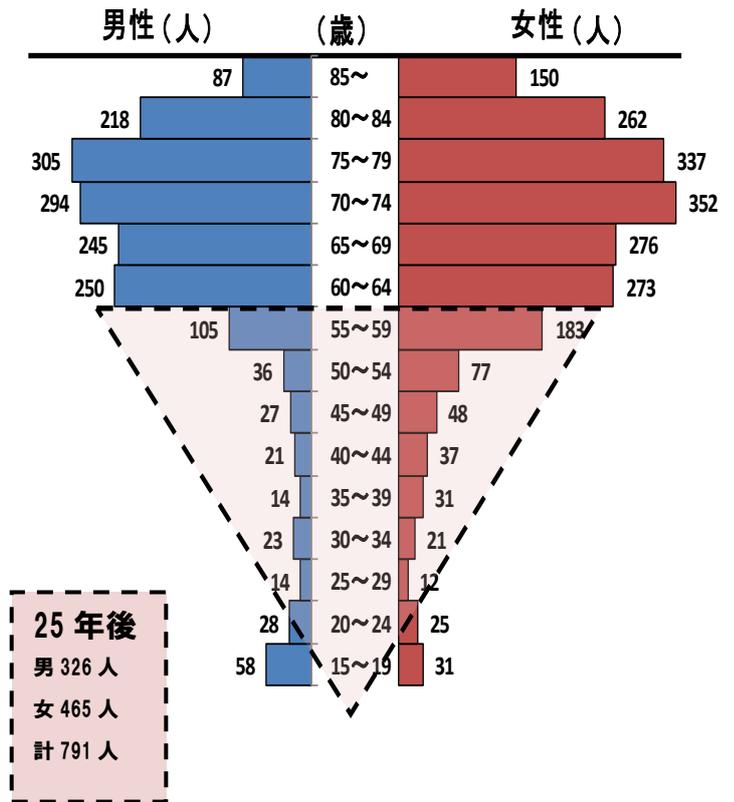
(注) 昭55以前は旧定義の農家、  
平2以降は新定義の農家

図21 基幹的農業従事者数の推移  
(年間150日以上の従事者)



資料：農林水産省「農林業センサス」

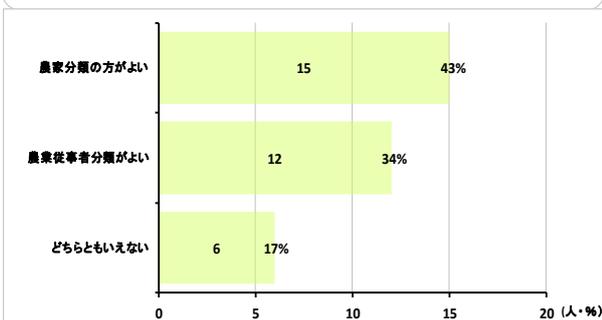
図22 農業者の男女別年齢別構成割合



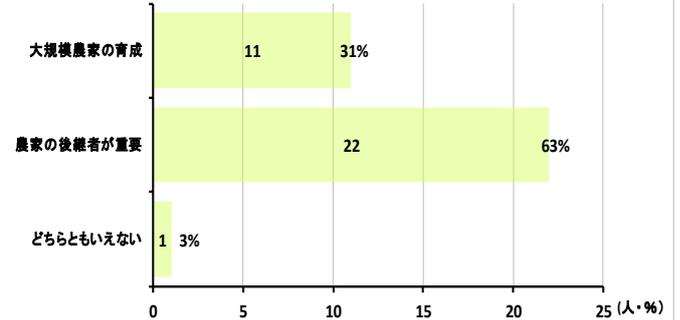
資料：農林水産省「2010年世界農林業センサス」

農業委員アンケート結果

【質問13】農林業センサスでは、家族経営の家を単位とする農家分類(主業・準主業・副業別)と農業従事日数(基幹的従事者150日以上)の人を単位とした従事分類がされていますが、農業問題を考える場合、どちらを重点に考えるのがよいと思いますか。1つ選んで○をつけて下さい。

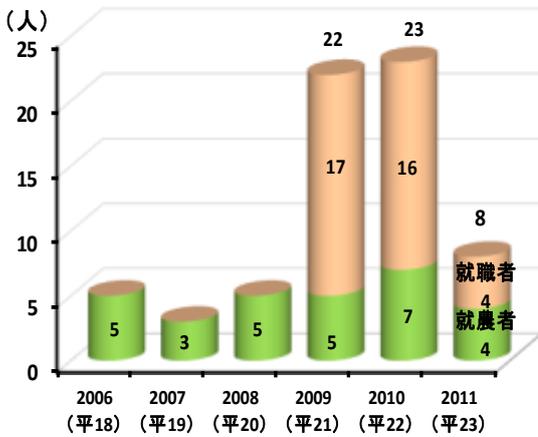


【質問14】いま、大きな世代交代期を迎えています。継続的に農業が経営できるような担い手対策はどう考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



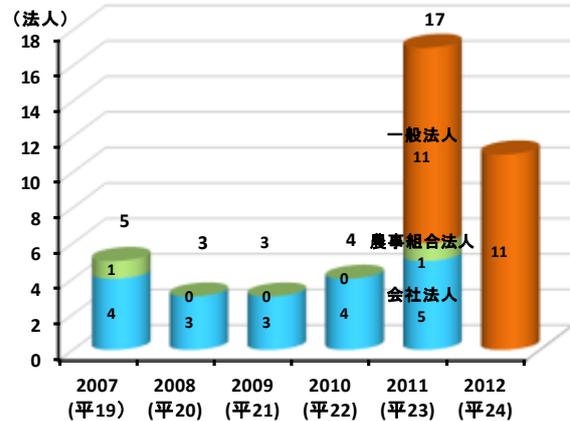
## ② 就農の状況

図23 新規就農者の推移



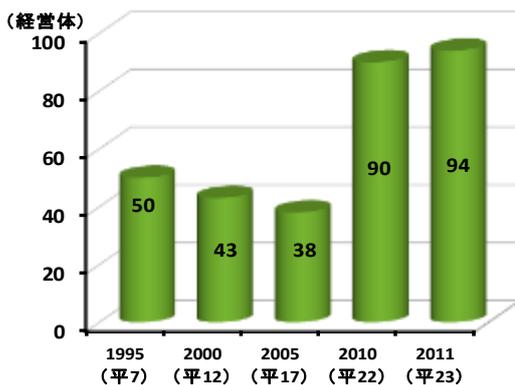
資料：県経営支援課調べ

図24 農業法人等の推移



資料：県経営支援課調べ  
農業委員会調べ

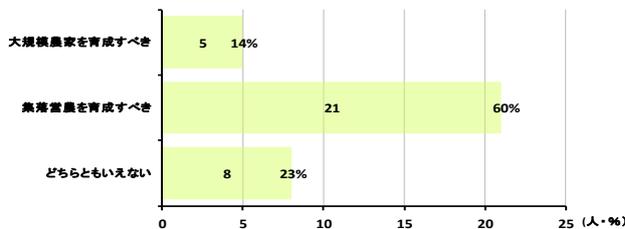
図25 認定農業者の推移



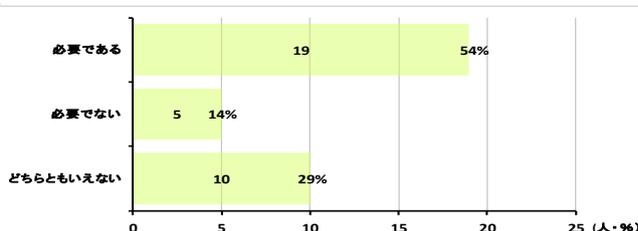
資料：県経営支援課調べ  
農業委員会調べ

農業委員アンケート結果

【質問15】 新規就農の状況をどう考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。

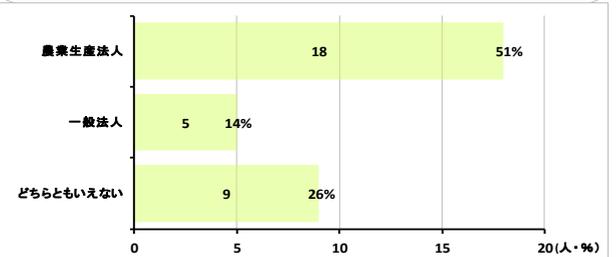


【質問16】 認定農業者制度についてどう考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



【質問17】 農業法人等について

平成21年12月の農地法等改正以降、農業生産法人だけでなく一般法人等の農業参入が可能となりました。地域の農地を守るためどちらが今後より重要と考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。

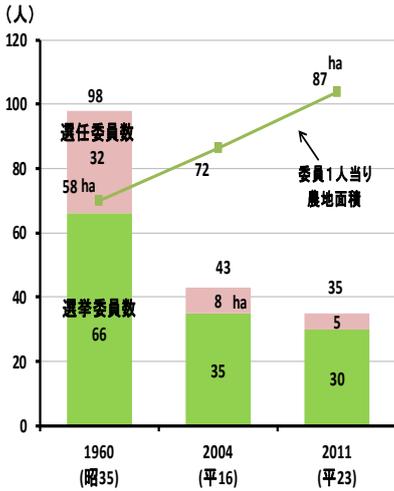


# 第4部 組織編

## 関係機関・団体の役割分担 ～広域化のなかでの関係機関・団体の連携強化～

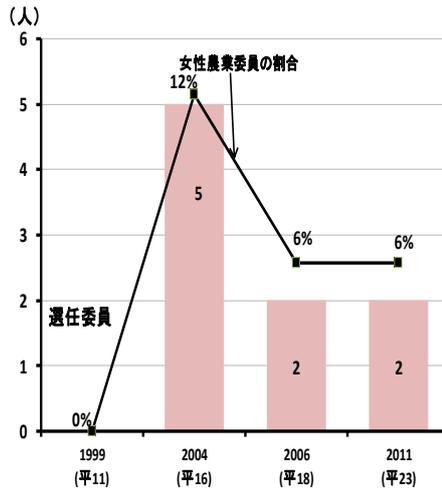
### ① 農業委員会の状況

図26 農業委員数の推移



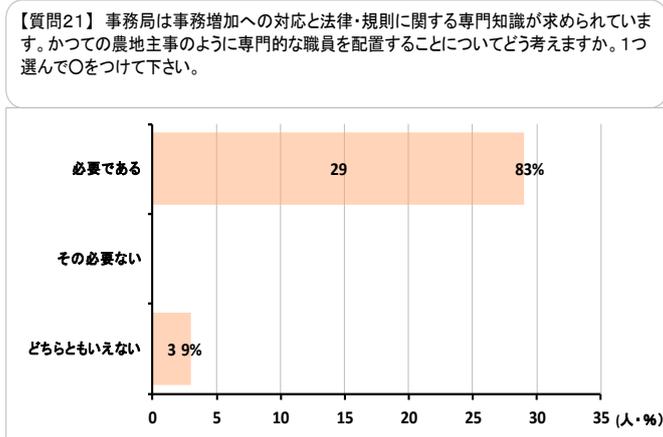
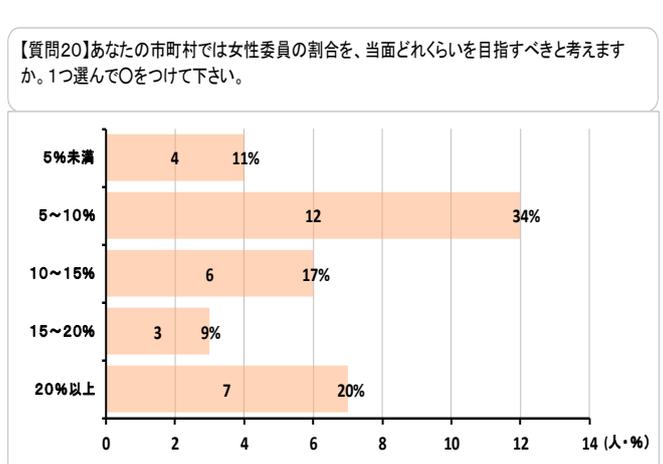
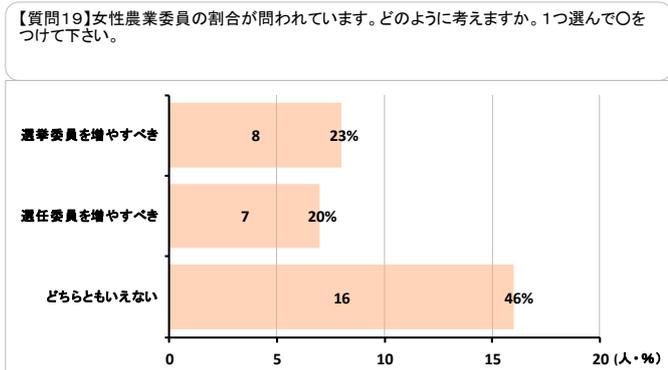
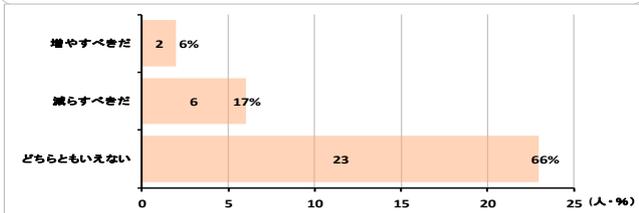
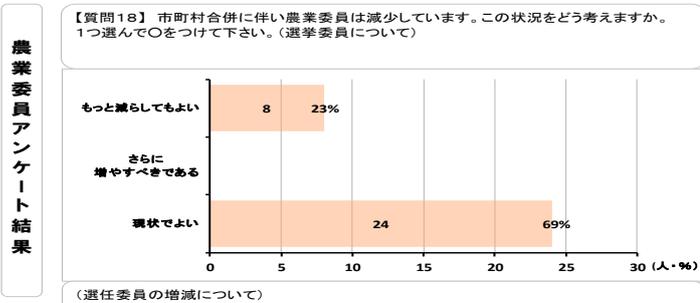
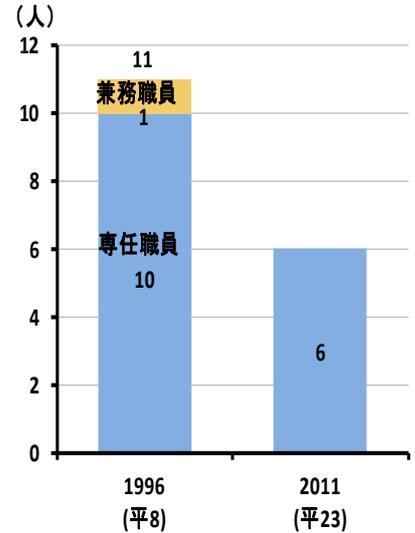
資料：農林水産省「耕地面積調査」  
農業会議調べ

図27 女性農業委員数と割合の推移



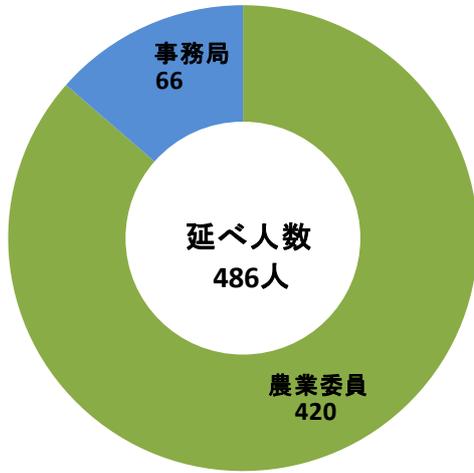
資料：農業会議調べ

図28 事務局職員数の推移



## ② 関係機関等との連携

図29 平成24年度農地パトロールの農業委員等実施人数



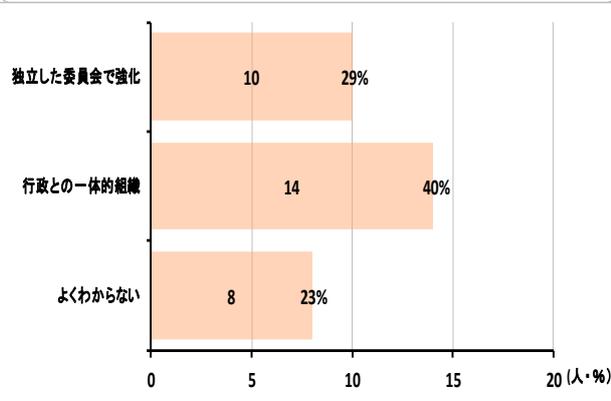
資料：農業委員会調べ

～管内における主な関係機関・団体～

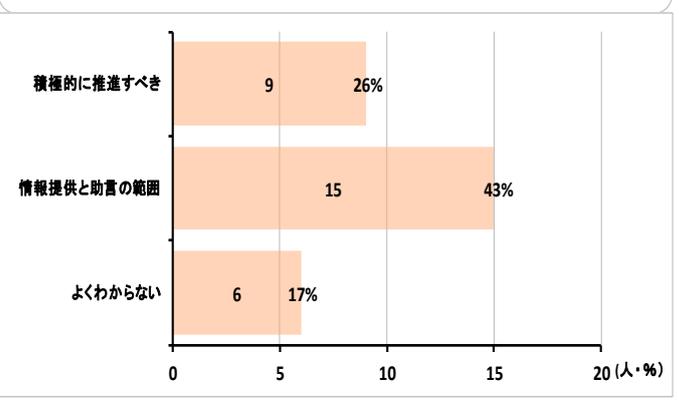
- ・ 農事実行組合（ ）
- ・ JA（ 支店）
- ・ 農業共済組合（1）
- ・ 土地改良区（ ）
- ・ 農地利用集積円滑化団体（1）
- ・ 市町村行政部局
- ・ 県農林部局
- ・ 法務局

農業委員アンケート結果

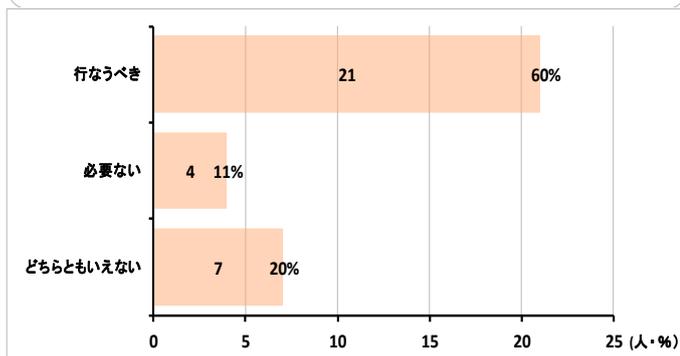
【質問22】いま農業委員会等組織のあり方が問われています。どうあるべきと考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



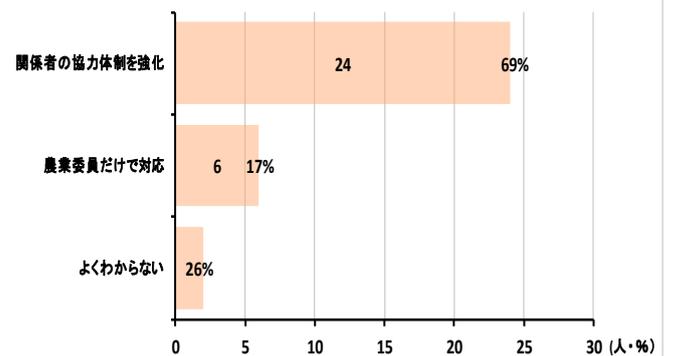
【質問24】「人・農地プラン」作成への積極的な推進と情報提供等の支援・協力が農業委員会に求められていますが、どこまでの取り組みが可能と考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



【質問23】農業委員会が毎年、戸別に行なう農業委員会委員選挙人名簿の登録申請書の提出の機会を活用し、農地の規模拡大・縮小などの「農家経営意向調査（農地貸借等調査）」を行うことについてどう思いますか。1つ選んで○をつけて下さい。



【質問25】農地パトロール実施（強化月間活動、日常監視活動）について、農業委員以外の協力を求める推進体制について、関係者の協力体制を整備すべきと考えますか。1つ選んで○をつけて下さい。



## 1 市町村農業委員会の主な建議事項

### (1) 市営土地改良（単市土地改良事業）の予算枠の拡充について

農地を維持管理し、再生利用していくことは、農産物の生産基盤を確保し食料を安定的に供給するという本来の役割のみならず、水源の涵養や温暖化防止、景観保持といった防災、環境保全等の多面的機能を有しています。また、農地を効率的かつ生産性の高い生産資源として、形成していくためには、地域の実情を踏まえた水利施設や農道等の整備改修が必要です。土地改良事業で造った施設も年数が経ち、共有施設の農道や農業用排水路の老朽化が目立ち、こうした共有施設の維持管理作業は農業現場では相当な負担となっています。

しかし、土地改良事業への予算措置が年々減少してきており、農業用水路を始め多くの施設の老朽化への対応が課題となっておりますので、施設の長寿命化のための事業を始めとした土地改良事業等の予算の増額をお願いしたい。

また、農道や農業用水路の点検、簡易な補修など日々の維持管理は各地区の実行組合などの関係者によって管理されていますが、こうした施設は、周辺住民の生活と密接に関わっており、たとえば農道は生活道路として、農業用水路は周辺住民の排水路として利用されています。特に、市街地近郊の農業用施設については、その傾向が強く、関係農家だけに維持管理をまかせるのではなく、維持管理についても行政からの支援等をお願いしたい。

## (2) 遊休農地対策の推進について

平成21年の農地法の改正により、遊休農地の利用状況調査が、農業委員会の新たな業務として課せられ、遊休農地の所有者等に対する指導から勧告までの手続きを農業委員会が一貫して行うことになり、平成22年度、平成23年度に米子市内の遊休農地を調査したところです。

現在、それに基づき、遊休農地の所有者等に農地利用に関する意向調査を実施しています。その中で、高齢により耕作できないから貸したいという回答が多く寄せられております。そこからは、今後、高齢化と担い手不足により地域の農地を守り、耕作を維持することが年々困難になり、農地の荒廃が一層進んでいくことが推測でき、遊休農地の拡大を防止するためには、担い手を確保し、担い手への農地の集積を進めることが重要になってきています。

農地の集積を進めるには、認定農業者、専門的な家族経営体、新規就農者等の経営意欲の高い経営体の農業生産活動を幅広く支援することが求められており、また、農業後継者の育成においては、就農時における対策や新規参入促進対策を推進し、新規就農者、農業後継者に対する支援強化、農業者の活動支援策の拡充が必要です。

小面積、形状が悪いなど耕作条件が悪いほ場においては、農地の利用状況が悪く、集積の対象になりにくい状況にあり、担い手への農地の利用集積が進まない状況にあります。意向調査のなかで、農地への進入路がない、農道の幅員不足によりトラクター等の農機具が入らないため耕作が困難になり、耕作をやめたなどの意見が多数あります。基盤整備を行い、耕作条件をよくすれば、作業効率が良くなり、利用集積の対象にもなることから、弓浜地区にモデル的な小規模の基盤整備を計画することを要望します。

また、米子市も耕作放棄地解消の補助事業に取り組んでいますが、農業者にその制度の周知が不足していると思われます。農業者のみなさんへ耕作放棄地を再生して耕作する場合の補助事業制度の周知、耕作放棄地解消PRをお願いします。

# 用語解説

図 2

「農業就業人口」

農業のみに従事した世帯員及び農業と兼業の双方に従事したが、農業従事日数の方が多い世帯員

「基幹的農業従事者数」

農業就業人口のうち、ふだんの主な状態が「仕事が主」の者

図 3

「農業の多面的機能」

農産物以外に、生産活動によって社会に役立つ有形・無形の価値が生み出されるもの。

環境保全機能や安らぎ機能、社会文化的機能、経済維持機能など。

$$\text{「洪水防止機能評価額」} = \frac{\text{全国洪水防止機能評価額}}{\text{全国田畑面積}} \times (\text{73万円/ha}) \times \text{市町村田畑面積}$$

$$\text{「利水安定機能評価額」} = \frac{\text{①}}{\text{全国水稲面積}} \times \text{市町村水稲面積}$$

※① = (河川流況安定機能 + 地下水かん養 + 土砂崩壊防止 + 気候緩和 + 土壌浸食防止)

「農業の多面的機能の評価方法（全国）」

機能		評価方法
洪水防止		田畑の貯水能力を評価
水 土 里 安 定	河川流況安定	水田灌漑用水の還元能力
	地下水かん養	水田地下水かん養量を評価
	土砂崩壊防止	土砂崩壊の水田抑止力
	気候緩和	水田気温低下効果(-1,3℃)
	土壌浸食防止	農地耕作の土壌浸食防止
保 健	有機廃棄処理	下水汚泥等の農地還元分
	保健・休養	農村地域への旅行支出額

図 4

「耕作放棄地」

この数年の間に再び耕作する考えのない農地（農林業センサス用語）

「遊休農地」

耕作の目的に供されておらず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地（農地法）

図 6

- ① **遊休農地の割合** =  $\frac{\text{耕作放棄地面積}}{\text{経営耕地面積} + \text{耕作放棄地面積}}$   
\*農林水産省「2010 世界農林業センサス」
- ② **鳥獣被害額** (100ha 当たり) =  $\frac{\text{鳥獣被害額}}{\text{耕地面積}}$   
\*鳥取県農林水産部調べ「鳥獣被害状況」
- ③ **土地生産性** (10ha 当たり) =  $\frac{\text{農業所得}}{\text{耕地面積}}$   
\*農林水産省「生産農業所得統計」
- ④ **農業従事者高齢者率** =  $\frac{\text{65歳以上農業就業人口}}{\text{農業就業人口}}$   
\*農林水産省「2010 世界農林業センサス」
- ⑤ **副業的農家率** =  $\frac{\text{副業的農家数}}{\text{販売農家数}}$   
\*農林水産省「2010 世界農林業センサス」
- ⑥ **土地持ち非農家率** =  $\frac{\text{土地持ち非農家数}}{\text{総農家数} + \text{土地持ち非農家数}}$   
\*農林水産省「2010 世界農林業センサス」
- ⑦ **水田未整備率** =  $\frac{\text{30a以上区画未整備水田面積}}{\text{水田面積}}$   
\*農林水産省「農業基盤情報基礎調査報告書」
- ⑧ **山間農業集落** =  $\frac{\text{山間農業地域集落数}}{\text{集落数}}$   
\*農林水産省「2005 農林業センサス」

図 7

「農業地域類型」

短期の社会経済変動に対して、比較的安定している土地利用指標を中心とした基準指標によって市町村及び市区町村（昭和25年2月時点の市町村）を類型化したもの

## 図 1 1

### 「農業振興地域」

農振法に基づく市町村の農業振興整備計画でマスタープランに定められた優良農地を確保するための地域。

## 図 1 4

### 「農地流動化」

土地の農業上の効率的利用をはかるため、その利用関係を調整すること。農用地利用増進事業(75年)を体系化・統合化されて80年には農地利用増進法が制定された。さらに93年には効率的かつ安定的な農業経営を育成するための農業経営基盤強化促進法が制定された。

## 図 1 5

### 「利用権設定」

農用地等の賃借や売買を円滑に進め、経営規模を拡大したい農家や農業生産法人に対し、効率的な生産ができるように促進するため(農業経営基盤強化促進法)、農地の賃借及び所有権移転(利用権の設定・移転)による権利移動のこと。

## 図 2 1

### 「販売農家、自給的農家」

販売農家は、経営耕地面積が10a以上又は農産物販売金額が年間50万円以上の農家

自給的農家は経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家

### 「主業、準主業、副業的農家」

・主業農家 農業所得が主(総所得の50%以上)・年間60日以上農業従事(65歳未満)

・準主業農家 農外所得が主・従事者は(主業農家と同じ)

・副業的農家 主業、準主業農家以外の農家

### 「専業農家、兼業農家」

・専業農家 世帯員のなかに兼業従事者が1人もいない農家

・兼業農家 【1種】兼業従事者が1人以上おり、かつ農業所得の方が多い農家

【2種】兼業従事者は(同上)、かつ兼業所得の方が多い農家

## 図 2 5

### 「認定農業者」

農業経営の目標等の計画(経営改善計画)を作成し市町村長の認定を受けたもの

## 図 2 6

### 「農業生産法人」

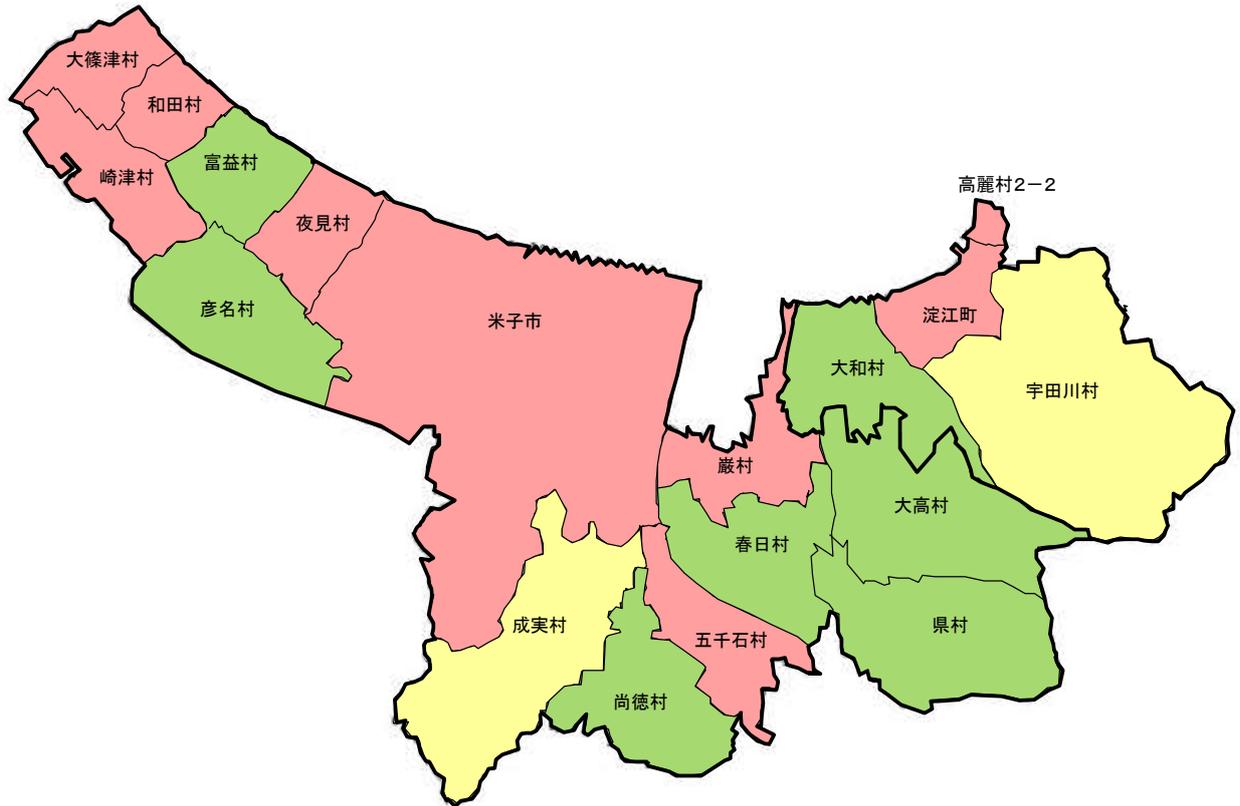
農地法で規定する農地を利用して農業経営を行なう法人。農事組合法人、持分会社(合名、合資、合同会社)、株式会社(株式譲渡制限会社に限る)の5形態。事業や構成員、役員についても一定の要件が農地法で定められている。

## 図 2 7

### 「農業委員定数」

市町村の裁量の拡大と業務運営等の効率化等を促進するため、必置基準面積の見直し、選挙委員の下限定数を条例に委任する措置が講じられている。

# 農業委員名簿



	選挙・ 選任別	氏 名	備考		選挙・ 選任別	氏 名	備考
1	選挙	仲田邦治	会長	19	選挙	渡邊昭洋	
2	選挙	吉澤一誠		20	選挙	石橋明広	農地部会長
3	選挙	松原幹人		21	選挙	本池 操	
4	選挙	田邊雄一	会長職務代理	22	選挙	安達卓是	
5	選挙	森中喜輝		23	選挙	尾坂宣雄	
6	選挙	佐々木知俊		24	選挙	仲田祐康	
7	選挙	大太年廣		25	選挙	船岡市秋	
8	選挙	大縄敬次		26	選挙	唐来新市	農政職務代理
9	選挙	山中春夫	農政部会長	27	選挙	番原邦彦	
10	選挙	竹谷捷昭		28	選挙	藤本昌弘	
11	選挙	小林秀美		29	選挙	山田博美	
12	選挙	伊塚定弘		30	選挙	高西史郎	
13	選挙	遠藤泰三		31	選任	伊塚重己	
14	選挙	佐藤敏行		32	選任	田中正昭	
15	選挙	松林 貢		33	選任	高田 衛	
16	選挙	安田 浩		34	選任	精山悦子	
17	選挙	木澤純一	農地職務代理	35	選任	林原成子	
18	選挙	足立寛隆					

## 米子市の概要

米子市は、2005年3月31日にそれまでの「米子市」と「淀江町」が合併して新たに誕生した市です。本市は、鳥取県の西側、山陰のほぼ中央に位置し、東には「伯耆富士」とも呼ばれる国立公園大山、北に日本海、そして西には汽水湖として日本で5番目の大きさを誇り、ラムサール条約にも登録されている中海という、豊かな自然に恵まれています。大山山麓に連なる丘陵地帯と日野川、法勝寺川、佐陀川、宇田川及び加茂川流域に発達する東・南部水田地帯並びに淀江地区の海岸線、弓浜半島に展開する畑作地帯が農業流域です。気候は、月平均気温がほぼ日本の平均気温を示しており、梅雨時期の降水量が比較的多いですが、日照時間は太平洋側とほぼ同じであり、温度差の少ない穏やかな気候であるといえます。

農地動向は地方都市近郊で見られる商工業の発展と、これに関する住宅化の伸展で農地転用が活発ですが、農地の保有志向が高く農地の流動化は進まない傾向にあります。生産面については、水田地帯では水稻を主幹作物とし、一部に果樹、葉たばこなどの組み合わせによる複合経営が行われており、弓浜畑作地帯では白ねぎ、葉たばこ、淀江地区では二十世紀梨、白ねぎ、にんじんの栽培が盛んです。一部に施設園芸の副業型が見られ、全般的には野菜等の生産地です。



市章



イメージキャラクター  
ヨネギーズ



市の花  
ツツジ



市の鳥  
コハクチョウ

### 【米子市農業委員会】

住所 〒683-8686

鳥取県米子市加茂町1丁目1番地

電話 0859-23-5276・5277

FAX 0859-23-5390

E-mail [nogyo@city.yonago.lg.jp](mailto:nogyo@city.yonago.lg.jp)